授業科目名	妊娠期のアセスメントとケア *Antepartum Assessment and Care*		担当教員	石山　さゆり	
開講年次	1年前期	セメスター	1	時間数（単位数）	30（2）
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義・演習	使用教室	
授業の目的	妊婦が身体的・心理的・社会的に健康であるか、また正常からの逸脱の有無をアセスメントし、妊婦・胎児が正常に経過するために必要な能力の習得を目指す。				
到達目標	1．正常妊婦の経過と正常からの逸脱を診断できるための基礎知識を習得する 2．妊娠期のアセスメントに基づいたケア計画が立案できる 3．妊婦・胎児が正常に経過するために必要なケアが説明できる				
授業計画	1回　助産診断、助産過程の概要（石山） 2回　妊娠期の助産診断とケア（1）（妊娠初期：悪阻）（石山） 3回　胎児の発育、器官形成、構造と機能（石山） 4回　事例の助産診断、計画立案（石山） 5回　妊娠期の保健指導（1）（石山） 6回　妊娠期の助産診断とケア（2）（妊娠中期：切迫早産）（石山） 7回　事例の助産診断、計画立案（石山） 8回　妊娠期の保健指導（2）（石山） 9回　妊娠期の助産診断とケア（3）（妊娠後期：妊娠高血圧症候群）（石山） 10回　事例の助産診断、計画立案（石山） 11回　妊娠期の保健指導（3）（石山） 12回　妊婦の心理・社会的アセスメントとケア（石山） 13回　ハイリスク妊婦・胎児のアセスメントとケア　（糖尿病合併妊娠）（石山） 14回　ハイリスク妊婦・胎児のアセスメントとケア（不妊治療後高齢妊娠）（石山） 15回　ハイリスク妊婦・胎児のアセスメントとケア　（精神疾患等合併妊娠）（石山）				
学習方法	産期学（正常編、異常編）、女性のフィジカルアセスメントの知識を用い、妊婦・胎児をアセスメントしケアを行うための思考過程を学習する。それらを踏まえ事例を提示し、妊娠初期から後期までの妊婦のアセスメントを行い、ケア計画が立案できるように事例の展開を行う。 助産診断類型の診断項目を記述することを事前課題とし、診断に必要な周産期学知識の小テストを講義前に行う。				
オフィスアワー	木曜日の昼休み、もしくは事前にメール（石山：s-ishiyama@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	我部山キヨ子：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ［1］妊娠期　第 5 版．医学書院，2013. 荒木勤：最新産科学　正常編 第 22 版．東京，文光堂，2008. 荒木勤：最新産科学　異常編 第 22 版．東京，文光堂，2012. 北川真理子：今日の助産　マタニティサイクルの助産診断・実践過程．東京，南江堂，2004.				
参考文献	我部山キヨ子：助産師のためのフィジカルイグザミネーション．東京，医学書院，2008. 村上睦子：臨床助産技術ベーシック＆ステップアップテキスト．大阪，メディカ出版，2010. 平澤美恵子：写真でわかる助産技術．東京，インターメディカ，2012. 進純郎：助産外来の健診技術．東京，医学書院，2010. 砥石和子：ハイリスク妊娠のマタニティケアプラン．大阪，メディカ出版，2014.				
評価方法	課題（30%）、筆記試験（70%）				